

【令和7年度農村振興施策検討委員会】

みやぎの地域資源保全活用支援事業について

- 1 令和7年度の実績（見込み）について 【P1】
- 2 令和8年度の計画について 【P3】



【第12回みやぎのふるさと農美里^{のんびり}フォトコンテスト(R6)】

—学生優秀賞「桜の下での語らい」(大衡村)—

宮城県農政部農山漁村なりわい課

1. 令和7年度の実績（見込み）について【補正後 5,160 千円（当初 13,000 千円）】

みやぎの地域資源保全活用支援事業（国事業名：ふるさと・水と土保全対策事業）は、中山間地域等の農地や土地改良施設の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図るため、活動を推進する人材の育成や農地・施設の保全及び利活用の促進に対する支援を実施しているもの。

なお、令和7年度の実績（見込み）は、以下のとおり。

(1) 基金運用見込み

(単位：千円)

	R6年度 実績	R7年度 実績（見込）	増 減	対前年比
基金元本（年度末）	653,253	649,524	▲3,729	99%
基金積立	0	0	—	—
基金戻し入れ	300	35	▲265	11%
基金取崩	3,513	3,764	251	107%
基金運用益 〔※R4～R6 平均〕 〔1,048 千円〕	1,175	1,395	220	118%

(2) 主な取組（事業費 5,160 千円）

① ふるさと水と土指導員・保全隊に対する補助（事業費 1,300 千円）
県内8の保全隊等の保全活動に対し補助金を交付

② 第13回みやぎのふるさと農美里^{のんびり}フォトコンテストの開催（事業費 150 千円）
農業農村の魅力を広く紹介するため、フォトコンテストを開催（宮城県中山間地域活性化推進協議会、宮城県土地改良事業団体連合会と共催）した。

また、昨年度から Instagram 部門を追加しており、若年層からの応募促進を図っている。

なお、県庁1階ロビーにおいて、第12回入賞作品の展示を行い、広報活動を実施した。

・募集期間 令和7年8月1日（金）～12月31日（水）

・審査日 令和8年2月12日（木）

・県庁1階ロビー展示期間 令和7年7月28日（月）～8月1日（金）

③ ふるさと水と土指導員研修会の開催等（事業費 1, 550 千円）

農業・農村の多面的機能の持続的発揮に向けた全国シンポジウム（旧ふるさと水と土基金全国研修会）については、令和 7 年 10 月 21 日（火）に東京都において開催され、本県からは 1 名が参加した。

また、地域住民活動の活性化推進を担うふるさと水と土指導員を支援することを目的に次の研修会を大崎市にて開催したもの。

- ・令和 7 度みやぎの地域資源保全活用支援事業研修会
令和 7 年 11 月 21 日（金） 対面開催 8 名参加

④ 地域住民活動促進事業（事業費 700 千円）

令和 7 年度における地域資源等保全活用支援事業（事務所提案事業）は下記のとおり。

・「田んぼダム」普及啓発事業（東部地方振興事務所）

県民に「田んぼダム」の仕組みや役割等を理解してもらうことを目的に模型を製作し、巡回展示や出前講座を実施することで、「田んぼダム」の普及啓発を図るもの。

・世界農業遺産「大崎耕土」に係る広報資料作成事業（北部地方振興事務所）

「大崎耕土」に関する水管理施設の必要性（価値）を可視化し、大崎地域世界農業遺産推進協議会と連携して、一般県民へカードを配布することにより、地域資源の利活用や維持・保全活動への理解向上を図るもの。

⑤ 地域住民活動の人材育成（事業費 1, 460 千円）

宮城県農業大学校と連携し、大崎地域世界農業遺産の巧みな水管理システムの維持継承に向けた人材育成を図るもの。

また、県立高等学校との連携構築により、地域人材の育成を目指すもの。なお、令和 7 年度に実施した教育機関との連携内容は、P 4～5 のとおり。

⑥ 国の事業実施計画における成果目標に対する実績見込み

- ・地域住民活動を通じた地域づくり支援 【目標 3 地区】⇒ 2 地区
- ・地域住民活動、調査研究等に係る補助事業 【目標 12 団体】⇒ 8 団体
- ・ふるさと水と土指導員の研修会 【目標 1 回】⇒ 1 回
- ・ふるさと水と土指導員の育成（全国研修会参加者） 【目標 3 人】⇒ 1 人
- ・第三者検討委員会の開催 【目標 2 回】⇒ 2 回

2. 令和8年度の計画について 【当初予算 13,000 千円（前年当初 13,000 千円）】

みやぎの地域資源保全活用支援事業（国事業名：ふるさと・水と土保全対策事業）を実施し、中山間地域等の農地や土地改良施設の有する多面的機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図るため、活動を推進する人材の育成や農地・施設の保全及び利活用の促進に対する支援を実施するもの。

なお、令和8年度の計画は、以下のとおり。

(1) 主な取組（事業費 13,000 千円）

- ① ふるさと水と土指導員・保全隊に対する補助（事業費 2,640 千円）

県内8の保全隊等の保全活動に対し補助金を交付予定

- ② 第14回みやぎのふるさと農美里^{のんびり}フォトコンテストの開催（事業費 150 千円）

農業農村の魅力を広く紹介するため、フォトコンテストを開催予定（宮城県土地改良事業団体連合会と共催）

- ③ ふるさと水と土指導員・保全隊研修会の開催等（事業費 1,750 千円）

ふるさと水と土指導員等の交流を兼ねた研修会を開催予定

- ④ 地域住民活動促進事業（事業費 6,500 千円）

地域資源の保全活用について、各地域の特徴ある保全・活用を図るため、各地方振興事務所からの提案事業を実施するもの（今後、要望量調査を実施）

・地域資源保全活用調査（3地区、事業費 4,500 千円）

・地域資源保全活用工法研究（2地区、事業費 2,000 千円）

- ⑤ 地域住民活動の人材育成（事業費 1,960 千円）

宮城県農業大学校及び県立高等学校との連携構築により、地域人材の育成を目指すもの。

・農業大学校 340 千円、県立高等学校（9校） 1,620 千円

- ⑥ 国の事業実施計画における成果目標

・地域住民活動を通じた地域づくり支援 【目標 3 地区】

・地域住民活動、調査研究等に係る補助事業 【目標 12 団体】

・ふるさと水と土指導員の研修会 【目標 1 回】

・ふるさと水と土指導員の育成（全国研修会参加者）【目標 3 人】

・第三者検討委員会の開催 【目標 2 回】

- 世界農業遺産を普及するための人材育成の一環として、宮城県農業大学校において、世界農業遺産「大崎耕土」の内容を盛り込んだ講義を実施するもの。

1 目的

- 宮城県の農業の将来を担う人材として、「大崎耕土」伝統的水管理システムがもたらす多面的機能や農村環境の保全についての理解を深めるため、関連する授業を実施し、世界農業遺産の人材育成を目指す。

2 実施内容

(1) 1年次（全学部の学生45名）

- ・内容：「教養講座」の授業として「世界農業遺産と水管理システムについて」（講義・見学）2コマ
- ・実施場所：水田経営学部教室・農業水利関連施設等
- ・講師：宮城大学 郷古雅春 特任名誉教授
- ・時期：5月8日

(2) 2年次（水田経営学部学生6名）

- ・内容：「環境保全型農業」の授業として「農村環境と生き物調査」（講義・実習）2コマ
- ・実施場所：水田経営学部内水田
- ・講師：大崎市世界農業遺産未来戦略室職員
- ・時期：6月16日



講師による講義



施設見学①



施設見学②



生き物調査

➤ 農業人材育成の一環として、県内の各高等学校において、関連授業等を実施するもの。

1 目的

- 宮城県の農業の将来を担う人材として、関連授業等を通じ、農村環境の保全や多面的機能についての理解を深める。

2 実施内容

(1) 小牛田農林高等学校

- ・内容：「大崎耕土」の関連施設見学、施設職員による講話の聴講等

(2) 南郷高等学校

- ・内容：「大崎耕土」内での学習ツアーの開催等

(3) 古川黎明高等学校

- ・内容：「大崎耕土」フィールドワークや高校課題研究発表会への参加等

(4) 宮城県農業高等学校

- ・内容：水稻肥料や環境に関わる調査・勉強会



小牛田農林高等学校



小牛田農林高等学校



南郷高等学校



宮城県農業高等学校

令和7年度みやぎの地域資源保全活用支援事業概要

事業目的

中山間地域等は、過疎化、高齢化等の著しい進行により、地域の活力が低下しつつある。農地や土地改良施設等の地域資源の利活用を基本とし、地域住民活動の多様な展開を促進することにより地域の活性化を図り、地域住民活動を推進する人材の育成、地域資源の利活用及び保全整備等を促進するものである。

【基金】・H5～9年度基金造成 660,000千円（拠出割合：国1/3、県2/3）

・R7年度末基金残高 649,524千円（令和8年3月末時点見込）

【根拠】・（国）中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施要綱

・（国）中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施要領

県条例及び要綱・要領等

- ・中山間地域等農村活性化基金条例（H31,3改正）
- ・みやぎの地域資源保全活用支援事業実施要綱（R2.4.1施行, R7.4.1一部改正）
- ・みやぎの地域資源保全活用支援事業補助金交付要綱（R2.4.1施行, R7.4.1一部改正）

事業内容

予算額：13,000千円（内6,500千円事務所提案枠）

（1）地域資源に係る調査研究事業【7,330千円】

地域住民活動による土地改良施設や農地等の維持、補修、保全などの農山漁村振興に関わる調査や資源活用の検討を支援

①ワークショップ等による住民活動支援、土地改良施設等地域資源の工法研究

（2）ふるさと・水と土指導員等研修事業【2,987千円】

①地域住民活動の活性化を図る指導員やリーダーの人材育成・確保

②地域人材育成に係る教育機関との連携（農業大学校・県立高等学校）

（3）地域資源の保全活用推進事業【2,683千円】

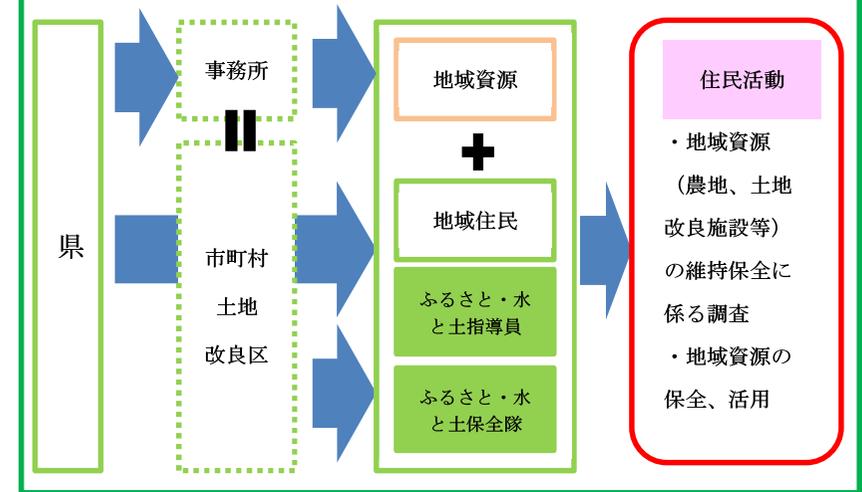
地域資源を活用した地域住民活動を実践する組織の構想化、設立支援及び活動への支援

①農村振興施策検討委員会の開催

②歴史的価値がある施設や環境配慮、親水施設等の地域住民が参画した保全活動を支援

③農村コミュニティの活性化による住民活動支援

事業の流れ



地域資源とは

自然環境、特産物、伝統的技術、文化財、歴史的・文化的施設、人材、コミュニティ等

事業効果

- ・歴史や文化、環境、生態系、景観など保全すべき資源調査による地域特有の資源が再発見され、6次産業化などの新たな起業が創設される。
- ・地域住民活動による農村に伝わる伝統文化及び伝統食の継承等により、コミュニティの維持及び農村地域の活性化が図られる。